



音声無料
ダウンロード

TOEFL iBT[®] テスト リーディング 設問タイプ別解答術

林 功

Isao Hayashi

TOEFL and TOEFL iBT are registered trademarks of ETS.
This publication is not endorsed or approved by ETS.

語研



音声無料
ダウンロード

TOEFL iBT® テスト リーディング 設問タイプ別解答術

林 功

Isao Hayashi

TOEFL and TOEFL iBT are registered trademarks of ETS.
This publication is not endorsed or approved by ETS.

語研

本書は、2019年に株式会社DHCから刊行された『TOEFL iBT® テスト リーディング類出問題対策ゼミ』を加筆・修正し再刊行したものです。

[TOEFL iBT® テストリーディング 設問タイプ別解答術 ためし読み Webページへ](#)

はじめに

かなり前の話ですが、本書の企画を頂いた当初は単語集を念頭にしており、TOEFL iBT® Reading に特化するつもりはありませんでした。しかし教室で TOEFL 対策講座を教えるたびに、iBT Reading の設問タイプに対する誤解や軽視があまりにも多いことに驚きました。インターネットで情報を得るだけで実際の設問をしっかりと読んだことがない方が多く、出題者の意図を正しく理解できず伸び悩む姿を目の当たりにして、私の中で次第に本書のフォーカスが定まっていきました。

本書は、読者の設問タイプ把握、英語長文読解力錬成、英単語力養成の3つを軸に、具体的な TOEFL iBT Reading 対策を展開します。そして最終的には海外大学・大学院のリーディング・アサインメントにしっかり対応できるレベルまで読者の長文読解力全般を引き上げる道具となることを意図しています。作題段階では著作権の関係で良質の英文をふんだんに使えないなどの苦しみもありましたが、以上の意図はかなりの程度まで本書で具体化できたと思います。読者の皆さんが表面上のテクニックに頼ることなく、実力で高得点を記録できるように設問タイプに精通してほしい、もっと言えば、事前に設問タイプを意識しながら本文を読み進む読解力を体得してほしい、これが本書の願いです。いっぽう、まだまだ力不足だから Reading の基礎的な側面を徹底したいという方のために、「大切なことは何度でも言おう」の精神で設問タイプ別の対処法を何度も繰り返し説明しています。

TOEFL iBT は他のテストと比べ、受験者の得点がより正確に本人の英語力を反映する良質な試験だと私は思います。だからこそ是非、本書でみなさんの得点力＝実力を高め、その先にあるひとりひとりの夢実現のための道具として駆使してください。

さて本書は、DHC 出版事業部廃部により残念ながら販売終了となっていた『TOEFL iBT® テスト リーディング類出問題対策ゼミ』を語研様のご協力とご尽力により巻末問題を加えて再編集したものです。再び読者と本書との絆をつなぐために、編集に関して細かいところまで配慮しつつ力を貸して下さった島袋様と八木様、本当にありがとうございます。

残暑が少し恋しい、初秋の夜更けに

林 功

目次

はじめに	3
本書の使い方	6
本書の効果的利用法	8
TOEFL iBT の全体構成	12
TOEFL iBT Reading Section の設問タイプ	13
音声について	18

Part1 練習問題

1. 地球科学	20
The Cambrian Explosion of Animal Life	
コラム Reading on Midnight Express	29
2. 生物学	30
Bonobos and Chimpanzees	
3. 発達学	42
Infant Perception and Cognition of Music	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ①②	53
4. 天文学	54
Variable Stars	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ③④	65
5. 歴史	66
The Olmec Civilization	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ⑤	79
6. 経済学	80
Corporate Social Responsibility and Sustainable Development Defined	
7. 社会学	90
Demographic Transition Theory and Current Trends	
8. 医学	102
Amnesia	
9. 歴史	112
Emancipation	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ⑥⑦	123
10. 経済学	124
Global Marketing	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ⑧	135

11. 歴史	136
Loyalists	
12. 歴史	148
African American Soldiers	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ⑨	159
13. 政治学	160
Pork Barrels and Logrolling	
14. 歴史	172
An Even More Challenging Life: A Pioneer Wife	
コラム 10 Powerful Codes for Reading Comprehension ⑩	183
15. 地球科学	184
Differentiation of the Early Earth	
16. 社会学	196
Aging around the World	
17. 社会学	206
Case Study in Sociology	
18. 生物学	216
Osmoregulators and Osmoconformers	
19. 植物学	226
Pollination by Insects	
20. 動物学	236
Animal Bioenergetics	
Part2 実戦問題	250
The Revered City of Teotihuacan	
巻末付録	
設問分布表	272
分野別単語リスト	274
索引	284

【カバーデザイン】 語研編集部

【音声録音】 Karen Haedrich / 一般財団法人 英語教育協議会 (ELEC)

本書の使い方

本文のテーマのジャンルを示しています。

1. 地球科学

The Cambrian Explosion of Animal Life

読解時間 10 分

1 The Cambrian period, which occurred between 542 and 488 million years ago, marked the most rapid evolution of new animal phyla and animal diversity in Earth's history. It is believed that most of the animal phyla in existence today had their origins during this time, often referred to as the Cambrian explosion. Echinoderms first arose during this period.

2 The Cambrian period was the first animals to exhibit complex behaviors.

3 It is still debated. There are many theories about why the Cambrian explosion occurred. Environmental factors such as rising atmospheric oxygen levels and increasing oceanic oxygen concentrations that scientists believe that as shallow lagoons or pools provided the necessary living space for larger numbers of different types of animals to co-exist. There is also support for theories that argue that ecological relationships between species, such as changes in the food web, competition for food and space, and predator-prey relationships, were primed to promote a sudden massive coevolution of species. Yet other theories claim genetic and developmental reasons for the Cambrian explosion. The morphological flexibility

and complexity of animal development afforded by the evolution of Hox control genes may have provided the necessary opportunities for increases in possible animal morphologies at the time of the Cambrian period. Theories that attempt to explain why the Cambrian explosion happened must be able to provide valid reasons for the massive animal diversification, as well as explain why it happened when it did. There is evidence that both supports and refutes each of the theories described above, and the answer may very well be a combination of these and other theories.

4 However, unresolved questions about the animal diversification that took place during the Cambrian period remain. For example, we do not understand how the evolution of so many species occurred in such a short period of time. Was there really an "explosion" of life at this particular time? Some scientists question the validity of this idea, because there is increasing evidence to suggest that more animal life existed prior to the Cambrian period and that other similar "species" so-called explosions (or radiations) occurred later in history as well. Furthermore, the vast diversification of animal species that appears to have begun during the Cambrian period is well into the following Ordovician period. Despite these arguments, most scientists agree that the Cambrian period was a time of impressively rapid animal evolution and diversification that is unmatched elsewhere during history.

英文を読み上げた音声を QR コードから直接再生できません。耳を使うことで学習効果がさらに高まります。

赤色で強調されている語句は設問に関わる語や語句、文です。要チェック！

設問を解き終わるまでの制限時間を示しています。このタイムを目標に問題にチャレンジしてみてください。

Directions: Answer the questions.

1. The word "breakthrough" in the passage is closest in meaning to
A setback
B advance
C scrutiny
D penetration
2. Which of the following can be inferred from paragraph 1 and 2 about measuring distances to galaxies and the study of variable stars?
A Measuring distances to galaxies is more significant in astronomy than the study of variable stars.
B Some stars in galaxies are always constant in brightness.
C Variations in those stars' luminosity play a vital role in measuring distances to galaxies.
D There are some connections between measuring distances to galaxies and studying variable stars.
3. The word "plotting" in the passage is closest in meaning to
A planning
B erasing
C entering
D calculating
4. The word "known" in the passage is closest in meaning to
A named
B informed
C famous
D existent

5. Which of the following can be inferred from paragraph 4 about cepheids?

- A They are more valuable in measuring distances to remote galaxies than are other variable stars.
- B They outweigh all other variable stars in space in number.
- C All of them will soon be identified by the Hubble Space Telescope and other modern instruments.
- D They helped Hubble know that the universe was larger than it had been supposed.

練習問題では 4~6 つの設問が用意されています。実戦問題は本試験を想定した 10 問となっています。

本書の効果的利用法

TOEFL iBT を既に受験された方ならおわかりかと思いますが、初めて本試験を受けられたときの衝撃を覚えていますか。本試験会場の PC ディスプレイで最初の問題を見たときに「これは手強い、間に合わない、解けない、もう無理」と思われた方も多いでしょう。

確かに、非英語圏の英語学習者が受ける 4 技能習得度テストとしては、TOEFL iBT は最難関だと思います。いっぽう、従来の試験とは違って、かなり正確に英語力を測れるテストだと感じている方も多く、筆者もそのうちのひとりです。TOEFL iBT で高得点 (100 点以上) が取れば、「英語ができる人」とほぼ言えると思います。

この本格派テストの Reading に、果敢に粘り強く取り組む方のために、本書の効果的な使い方を示してみます。

1. 常に本試験を意識して

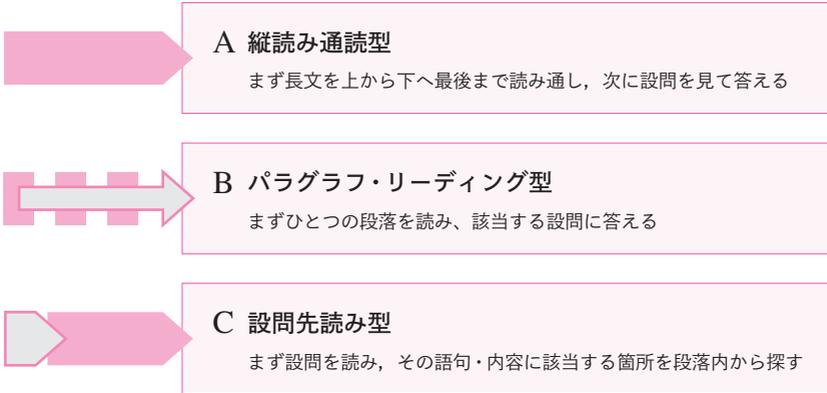
試験で高得点を取るために大切なことはなんでしょうか。いろいろあると思いますが、シンプルに言えば、そのテストに見合う実力をつけること。そして実際に試験会場で大切なことは、設問をよく読み出題者の意図をはずさないこと、つまり「聞かれたことに正確に答えること」です。当たり前だと思われるでしょうが、実際の試験で高得点を獲得するには、常に「試験会場にいること」を想定して TOEFL iBT 対策を行うことが重要です。具体例を挙げると、必ずタイマーを用意して制限時間を守る、自宅で PC に向かう場合も試験会場にいることを想定して、問題演習時はいっさい飲食をしない、などです。常に実戦を意識してください。

2. 制限時間の厳守

本書の各長文問題は語数と設問数がやや少なめになっていますが、制限時間が明記されています。まずはその時間を守ること。時間を守りつつ正解を導くにはどう時間を配分するのか、自分なりに工夫してください。記載された制限時間ではどうしても苦しい方は、各長文問題で延長は 2 分までと決めておきましょう。

3. 自分の読解法を確立しよう

英語長文問題の解き方として、基本的には以下3つのプロセスがあります。



詳述すると長くなるので筆者の意見を端的に言うと、「3つを場面によって組み合わせる」のがよいと思います。本試験の長文問題は合計2題、制限時間35分なので、平均17~18分で解き終える計算になりますが、現行の形式では長文全体が一度に表示されるので、時間配分は受験者の実力次第ということになります。いつも機械的に1題17分で解けるとは限らず、場合によっては2題目を13分で解かなければならないこともありえます。そういう時は、Cの設問先読みを使うしかないでしょう。いっぽう、1題目が得意分野の長文で早めに終わり、2つ目の長文に対して時間の余裕があるときは、確実に正解を導くためにAかBのうちの得意な読解法を使うべきでしょう。

現時点でどのやり方が自分に合うかわからない方には、以下をアドバイスしておきます。TOEFL iBTのReadingでは“According to paragraph 2,”のように設問文で段落番号が明示されることが多いので、Bのパラグラフ・リーディングが最も効果的かもしれません。アメリカの学生が子どもの頃から常用する読解法です。

4. 本書がやや難し過ぎると感じたら

TOEFL iBTを受ける方全員が100点が必要とするわけではありません。いろいろなニーズや事情があるはずです。TOEFL iBT初心者や英語がやや苦手な方には、別のアプローチがあるはず。そこで、本書のもうひとつの使い方を提示しておきます。

長文問題に挑む前に、各問題の解説の後に収載している《重要単語とフレーズ》を参照してください。問題を解く前に何回か目を通し、できれば発話して暗記しましょう。先に語彙面の不安を取り除いておくことで、問題に解答しやすくなるはず です。

単語力に全く自信がないという場合は、巻末の《分野別単語リスト》をあらかじめ参照し、覚えこみましょう。各分野 35 語程度なので、それほど負担にはならず 覚えやすいと思います。学術分野からおまけのキャンパス用語まで目を通して、なるほどねえと楽しみながら覚えてください。

5. 解き終わったら

英語が得意な人も苦手な人も、復習は必須です。解き終わったら、まず間違ってしまった設問に印をつけましょう。後で自分の苦手な設問タイプを《設問分布表》で確認するためです。細かなことですが、細かなことの積み重ねが大きな戦いの勝敗を分けるのです。

次に解説を熟読します。間違いの原因を特定し、どこに注目すべきか本文や設問で確認しましょう。そして長文をもう 1 回通読し、和訳も通読して、全体をつかめたか確認してください。

6. 《重要単語とフレーズ》について

何度も発話して、“pass a bill” のようにかたまりで覚えましょう。英語に続けて日本語も「法案を通す」のように発話し、自分の耳で聞けば、記憶の定着はより強固なものとなります。

本書は Reading 対策本ですが、各長文と《重要単語とフレーズ》、《分野別単語リスト》にはネイティブスピーカーによる音声教材が用意されています。《重要単語とフレーズ》がある程度暗記できたら、長文の音声を繰り返し聞き、シャドーイングをしてください。英語の発音やイントネーションに自信のない方は、無闇に自己流で音読すると自分の間違った発音やイントネーションが身についてしまいますので、注意が必要です。Reading 対策本の本書でこれ以上の詳述は脱線となるので、シャドーイングについて詳しく知りたい方は LINGO の林功までお問い合わせ下さい。

7. 設問タイプの見直しについて — 設問タイプの出題早見表

本書の P.272 に《設問分布表》が用意されています。遅くとも長文問題を 10 題程度終了した段階で、設問タイプによる巧拙の傾向が出ているはずですが。苦手なタイプの設問をまとめて見直して、設問の真の意図と解答のコツをしっかりと把握しなおしてください。そうすれば、後半での自分の伸びをはっきりと自覚することができます。本試験に近い人は、間違えた問題の設問タイプに偏りがいいかもチェックしましょう。

8. 大切なことは何度でも — Reading Section 攻略の 3 本柱を再確認

以下の A B C はこれまでのまとめです。これらは普遍的なもので、決して小手先のテクニックではないので、TOEFL iBT 以外でも十分に通用します。読解問題征服の最重要ポイントです。

- A 必要な単語を暗記する
- B 11 個の設問タイプに精通する
- C 自分の読解法を確立する

A については、分野別の準専門用語も覚える必要があります。例えば osmosis 「浸透」のような単語は専門用語と言えるほど難解ではなく、注はつかないので、長文の内容を理解するのに意味を知っておく必要があります。暗記が必要です。

B については、Why-to 問題や infer 問題などの意図を誤解しやすい独特な設問について、しっかりと把握し、解法のコツをつかんでおくこと。

そして C は、自分がいちばん使いやすく正解率の上がる方法を、場面によって使い分けられるようになるまで習得することです。

最後に、大切なことをもうひとつだけ。解答を決めるとき、「迷ったら設問に戻る」を忘れないでください。

TOEFL iBT の全体構成

試験時間が約 2 時間に及ぶ TOEFL iBT の全体構成において、本書が徹底的に特化する Reading Section はどれくらいの割合を占めるのでしょうか。全体構成と比較しながら、以下の表で見てください。

セクション	問題数／設問数	制限時間	配点／120 点
Reading	長文 2 題／設問数：各 10 問	35 分	30 点
Listening	講義 3 題 設問数：各 6 問 会話 2 題 設問数：各 5 問	36 分	30 点
Speaking	単独問題：1 問 統合問題：3 問	16 分	30 点
Writing	Integrated task：1 問 Academic Discussion task：1 問	29 分	30 点

Reading Section

Passage (長文) の分量は 700 語程度。内容は大学教養課程レベルの多様な学術分野 (自然科学・人文科学・社会科学・応用科学) から出題。

Reading Section の設問形式

1	内容一致問題	本文の内容に当てはまる選択肢を選ぶ。
2	内容不一致問題	本文の内容に当てはまらない選択肢を選ぶ。
3	推測問題	状況から推測できる選択肢を選ぶ。
4	作者の意図・理由問題	理由・目的にあった選択肢を選ぶ。
5	段落関係把握問題	段落同士の関係や文中での役割を正しく表している選択肢を選ぶ。
6	同意語問題	指定された単語に最も意味の近い選択肢を選ぶ。
7	指示語問題	代名詞が指しているものを選ぶ。
8	言い換え問題	提示されたセンテンスの中の不可欠な情報を、正しく言い換えている選択肢を選ぶ。
9	文挿入問題	本文中の 4 箇所の空所から、提示された英文を挿入する場所を選ぶ。
10	要約問題	配点 2 点。導入文を読み、本文の最も重要な見解を表す 3 つの選択肢を選んで、要約を完成させる。
11	分類問題	配点 3～4 点。選択肢から適切なフレーズを選択し、指定のカテゴリに分類する。

TOEFL iBT Reading Section の設問タイプ

出題者の意図を正しく理解し、設問の意図に的確に答えることが試験の鉄則です。TOEFL iBT Reading の設問タイプは 11 種類あり、多岐にわたるので、インターネットなどの間接的な情報だけに頼らず、自分の目で設問の英文をしっかりと確かめてください。さもないと、みなさんの実力が得点に結びつきません。

ここでは、各設問タイプについて簡単に説明します。詳細は演習で都度詳しく解説しますので、ここでは各設問タイプの概要と特徴をつかんでください。巻末 P.272 には復習に便利な《設問分布表》を収載しています（※以下に提示する設問の表現は、あくまでも一例です。本試験において同一の表現の設問が出題されるとは限りません。異なる表現や形式が出題される場合もあります）。

1. 内容一致問題

最も一般的な、本文中に書かれた事実を聞く問題。例として設問をひとつ訳しておきます。true of「当てはまる」は、この設問タイプでよく使われる表現です。

According to paragraph 2, which of the following is true of X?

「第 2 段落によれば、以下のどれが X に当てはまるか」

以下に、このタイプの頻出設問文をあげておきます。

The author's description of X mentions which of the following?

According to paragraph 5, X occurred because ...

According to paragraph 4, X did Y because ...

2. 内容不一致問題

正しくない選択肢を探す問題。Except 問題と筆者は呼びます。

The author's description of X mentions all of the following EXCEPT:

「著者の X についての描写が以下で触れていないのはどれか」

選択肢の中で本文と関係のないものを選びたいわけですから、もうひとつ挙げておきます。

According to the passage, which of the following is NOT true of X?

この種の設問では「X に当てはまらない」選択肢を選びましょう。受験者には正しいものを選ぶとする習性がありますから、勘違いしないように！

3. 推測問題

状況から推測したり、暗示を汲み取ったりするのがこの設問。筆者が infer 問題と呼ぶこの設問タイプは、誤解が多く、特に注意が必要です (Listening でも頻出)。

Which of the following can be inferred from paragraph 2 about X?

「X について第 2 段落から推測できることは以下のどれか」

According to paragraph 3, the author of the passage implied that ...

「第 3 段落によれば (that 以下で) 本文の著者がほのめかしたのは何か」

このタイプは「推測」なので、本文でハッキリ言われていることは答えにはなりません。

4. 作者の意図・理由問題

英語だと Rhetorical Purpose Questions, つまり著者が読者を説得するために本文で使う技巧に関する設問です。わかりやすく言うと、理由や目的、段落の役目などを問う問題です。このタイプでは Why で聞いて To ... で答えさせる、厳密に言うところ「理由」ではなく「意図」を問う問題が頻出です。のちほど演習で詳しく扱います。

The author discusses X in paragraph 2 in order to ...

「何をするために、第 2 段落で著者は X について論じているのか」

Why does the author mention X?

「なぜ著者は X についてふれているのか」

5. 段落関係把握問題

やや変わったところでは、段落間の関係や長文中での役割を尋ねる設問もあります。

What function does paragraph 3 serve in the organization of the passage as a whole?

「第 3 段落は本文全体の構成においてどのような機能をはたしているか」

6. 同意語問題

これは誤解の少ないタイプでしょう。本文中で網掛けになっている「単語(句)に意味が最も近い選択肢を選べ」という問題。設問としてはシンプルですが、必出なので重要です。

The word X in the passage is closest in meaning to ...

The phrase X in the passage is closes in meaning to ...

In stating X, the author means that ...

7. 指示語問題

最近の出題が減っているようです。おそらく、代名詞など指示語の用法についての受験者の力は、他の設問タイプ(8, 9など)で測ることができるからでしょう。

The word X in the passage refers to ...

「本文の語 X が指しているのはどれか」

いずれにしても、文法的な形、つまり単複に注目したうえできちんと意味を取る力が要求されます。

8. 言い換え問題 (一文をシンプルに言い換えて必須情報を伝える問題)

「要約」と呼ぶ方もいらっしゃると思いますが、最後に出される要約問題と紛らわしいので、筆者は表題のように呼んで生徒さんに説明しています。設問や注意書きが長い場合、英語なので面倒がる方がいますが、その姿勢が誤解と失点のいちばんの原因かもしれません。既に TOEFL iBT を受験された方は、以下の設問をしっかりと読んで和訳してみたことがありますか。

Which of following best expresses the essential information in the highlighted sentence? Incorrect answer choices change the meaning in important ways or leave out essential information.

「網かけで表示されているセンテンスの必須情報を以下のどれが最もよく表しているか。不正解の選択肢は重要な点で意味を変え、あるいは必須情報を割愛している」

このタイプの設問で確実に正解するためには、最終的に essential information (不可欠な情報) がどの部分なのかを読み解き、突き止める必要があります。この解法も後で詳述します。

9. 文挿入問題

本文中の4箇所の空所いずれかに英文を挿入する問題。意味の流れを正確につかむ解釈力と、それを助ける接続語句や代名詞などを正しく把握する文法力が必要です。

Look at the four squares [■] that indicate where the following sentence can be added to the passage.

「以下のセンテンスを本文に加えられる可能性がある箇所を示す4つの正方形 [■] に目を向けなさい」

(挿入文の例)

But consider the fact that human population grew very slowly for most of our existence, and then doubled in the span of half a century to reach six billion in 1999.

Where would the sentence best fit? Click on a square [■] to add the sentence to the passage.

「このセンテンスはどこに最も適合するのか。本文にこのセンテンスを加えるには、正方形 [■] をクリックしなさい」

実際の問題では、本文の正方形 [■] をクリックすると、英文が挿入されます。

10. 要約問題

他の2倍の配点がある設問ですから、確実に正解したいですね。TOEFL iBTのReadingで最後に登場する代表的な設問ですが、指示をよく読まないと、思わぬ失点をしてしまう設問でもあります。読者の中にも、この設問を誤解している方がまだいらっしゃるかもしれません(演習で詳しくやりましょう)。

Directions: An introductory sentence for a brief summary of the passage is provided below. Complete the summary by selecting the THREE answer choices that express the most important ideas in the passage. Some sentences do not belong in the summary because they express ideas that are not presented in the passage or are minor ideas in the passage. This question is worth 2 points.

「指示文：本文の短い要約に対する導入文が以下に与えられている。本文における最も重要な見解を表す3つの選択肢を選んで要約を完成しなさい。いくつかの選択肢は要約に含まれる資格がない。なぜなら、本文では提示されていない見解を表しているか、本文では重要でない見解だからである。この設問は2点の価値がある」

Drag your answer choices to the spaces where they belong. To remove an answer choice, drag it back.

「あなたの答えの選択肢をそれらが含まれるべき欄にドラッグしなさい。選択肢を削除するには、ドラッグして戻しなさい」

For a long time scientists have argued that the extinction of passenger pigeons was related to human activities.

-
-
-

実際の問題では、この下に6つの選択肢が提示されます。

11. 分類問題

前述した要約問題に代わり、ごく稀に登場するのがこのタイプ。今後出題される可能性は低いと思われませんが、選択肢が7つなら3点、9つなら4点の高配点なので、要の受験で出てきたら勝敗を左右するかもしれません。

Directions: Select the appropriate phrases from the answer choices below and match them to the type of apes to which they relate. Two of the answer choices will NOT be used. This question is worth 3 points.

「指示文：以下の解答選択肢から適切なフレーズを選別し、それらが関連する類人猿の種類に合わせなさい。答えのうち2つは使用されない。この設問は3点の価値がある」

Drag your answer choices to the spaces where they belong. To remove an answer choice, drag it back. To review the passage, click VIEW TEXT.

「あなたの答えの選択肢をそれらが含まれるべき欄にドラッグしなさい。選択肢を削除するには、ドラッグして戻しなさい。本文を見直すには、『本文を見る』をクリックしなさい」

Bonobos

-
-
-

Chimpanzees

-
-
-

実際の問題では、この下に7つまたは9つの選択肢が提示されます。

音声について（音声無料ダウンロード）

- ◆ 本書の音声は無料でダウンロードできます。下記の URL または QR コードの【無料音声ダウンロードはこちら】から本書紹介ページにアクセスしてご利用ください。

<https://www.goken-net.co.jp/catalog/card.html?isbn=978-4-87615-433-3>



- ◆ 各長文のページ左上に記載されている QR コードから、直接音声を聞くこともできます。モバイル端末などからご利用ください（通信費が発生する場合があります）。
- 音声は全 47 ファイルです。各長文の全文を読み上げた音声および《重要単語とフレーズ》、《分野別単語リスト》に掲載されている単語や語句の音声を収録しています。トラック番号はアイコン (🔊 001 ~) で示しています。
- 音声ファイルを利用して、シャドーイングやディクテーションなど様々な学習方法に取り組んでみましょう。再生速度を変更して行うトレーニングもおすすです。

⚠ 注意事項 ⚠

- ダウンロードで提供する音声は、複数のファイル・フォルダを ZIP 形式で 1 ファイルにまとめています。ダウンロード後に復元してご利用ください。ダウンロード後に、ZIP 形式に対応した復元アプリを必要とする場合があります。
- 音声ファイルは MP3 形式です。モバイル端末、パソコンともに、MP3 ファイルを再生可能なアプリ、ソフトを利用して聞くことができます。
- インターネット環境によってダウンロードできない場合や、ご使用の機器によって再生できない場合があります。
- 本書の音声ファイルは、一般家庭での私的使用の範囲内で使用する目的で頒布するものです。それ以外の目的で本書の音声ファイルの複製・改変・放送・送信などを行いたい場合には、著作権法の定めにより、著作権者等に申し出て事前に許諾を受ける必要があります。

練習問題

Part 1



The Cambrian Explosion of Animal Life

制限時間 10 min.

- 1 The Cambrian period, which occurred between 542 and 488 million years ago, marked the most rapid evolution of new animal phyla and animal diversity in Earth's history. It is believed that most of the animal phyla in existence today had their origins during this
- 5 time, often referred to as the Cambrian explosion. Echinoderms, mollusks, worms, arthropods, and chordates arose during this period. One of the most dominant species during the Cambrian period was the trilobite, an arthropod that was among the first animals to exhibit a sense of vision.
- 10 2 The cause of the Cambrian explosion is still debated. There are many theories that attempt to answer this question. Environmental changes may have created a more suitable environment for animal life. Examples of these changes include rising atmospheric oxygen levels and large increases in oceanic calcium concentrations that
- 15 preceded the Cambrian period. Some scientists believe that an expansive, continental shelf with numerous shallow lagoons or pools provided the necessary living space for larger numbers of different types of animals to co-exist. There is also support for theories that argue that ecological relationships between species, such as changes
- 20 in the food web, competition for food and space, and predator-prey relationships, were primed to promote a sudden massive coevolution of species. Yet other theories claim genetic and developmental reasons for the Cambrian explosion. The morphological flexibility

and complexity of animal development afforded by the evolution of
25 Hox control genes may have provided the necessary opportunities
for increases in possible animal morphologies at the time of the
Cambrian period. Theories that attempt to explain why the Cambrian
explosion happened must be able to provide valid reasons for the
massive animal diversification, as well as explain why it happened
30 when it did. There is evidence that both supports and refutes each
of the theories described above, and the answer may very well be a
combination of these and other theories.

3 However, unresolved questions about the animal diversification
that took place during the Cambrian period remain. For example, we
35 do not understand how the evolution of so many species occurred
in such a short period of time. Was there really an “explosion” of
life at this particular time? Some scientists question the validity of
this idea, because there is increasing evidence to suggest that more
animal life existed prior to the Cambrian period and that other similar
40 species’ so-called explosions (or radiations) occurred later in history
as well. Furthermore, the vast diversification of animal species
that appears to have begun during the Cambrian period continued
well into the following Ordovician period. Despite some of these
arguments, most scientists agree that the Cambrian period marked a
45 time of impressively rapid animal evolution and diversification that
is unmatched elsewhere during history.

(453w.)

Directions: Answer the questions.

1. The word “preceded” in the passage is closest in meaning to
 - A retreated before
 - B happened before
 - C followed out
 - D set off

2. The word “refutes” in the passage is closest in meaning to
 - A argues
 - B agrees
 - C disproves
 - D receives

3. The phrase “prior to” in the passage is closest in meaning to
 - A during
 - B below
 - C over
 - D before

- 4. Which of the following can be inferred from paragraph 2 about the cause of the Cambrian explosion?**
- A It will soon be clarified by a new morphological approach.
 - B It may be that ecological relationships between species encouraged a sudden increase in the coevolution of species.
 - C Many theories, which are supported or refuted by evidence, try to explain it.
 - D It cannot be fully explained by a single theory.

1. 2. 3. は、TOEFL iBT の Reading Section でよく出題される同意語問題。該当単語の意味をよく知っていれば、本文の前後の意味のつながりを深く確認しなくても即答可能。ですが、もし該当語が未知の単語だったり、多義語でどの意味なのか曖昧だったりする場合は、前後の語句との意味のつながりを慎重に検討し、ぶつぶつ言うくらいに和訳してから答えを決定しましょう。

1. 解答 B

The word “preceded” in the passage is closest in meaning to

本文中の“preceded”に意味が最も近い選択肢はどれですか。

- | | |
|--------------------|-----------|
| A retreated before | A 以前に後退した |
| B happened before | B 以前に起こった |
| C followed out | C 最後まで従った |
| D set off | D 引き起こした |

単語が得意な方は知っているレベルの単語でしょうし、pre- という「以前の、先の、前の」を表す接頭辞に注目する受験者も多いかも。わからない方は本文で前後を確認してみましょう。関係代名詞と思われる that に続いて、... that preceded the Cambrian period となっています。訳してみると「カンブリア紀に先立つ～」がうまくつながります。... の部分は、rising levels and increases です。もう少し形にこだわる方は、preceded の後ろに the Cambrian period という目的語があるので、preceded はカンブリア紀「に先立つ」という意味の他動詞だとわかりますね。

2. 解答 C

The word “refutes” in the passage is closest in meaning to

本文中の“refutes”に意味が最も近い選択肢はどれですか。

- | | |
|-------------|--------|
| A argues | A 主張する |
| B agrees | B 同意する |
| C disproves | C 反証する |
| D receives | D 受け取る |

refute は iBT 受験者必須の単語。なぜなら、Writing の Integrated task でレクチャーの要約を書くとき、実際によく使う単語だから。例えばレクチャーがその前

の Reading のポイントを論破していると要約したいなら, The lecturer refutes the argument of the reading passage about ... というふうに書きましょう。ゆえに refute の語義は「(相手の) 間違いを証明する, 反証する, 論破する」です。

3. 解答 D

The phrase “prior to” in the passage is closest in meaning to

本文中の “prior to” に意味が最も近い選択肢はどれですか。

- | | |
|----------|---------------|
| A during | A の間中に |
| B below | B の下に |
| C over | C (の期間) にわたって |
| D before | D 以前に |

これは即答問題。本文に戻らずに解けますが, 念のために確認すると prior to the Cambrian period となっているので, 「カンブリア紀以前に」でしょう。prior to = before は, 2 秒問題です。知らなかった方は prior to = before と発音して耳で覚えましょう。

4. 解答 D

やや難問です。この設問こそが, 知る人ぞ知る TOEFL iBT の inference (推測) 問題。本試験を 10 回受けてもその真意に気がつかない受験者も多いのが, この設問タイプです。ここでしっかりと, 適切なアプローチを体得しましょう。まず infer の語義は? 厳密に言うと「証拠に基づいて推測する」。例えば, $A = B$, $B = C$ という証拠があれば, $A = C$ が推測できますよね。つまり, 本文中の証拠となる文から推測して正解をあぶり出すのです。「(英語の) 設問を読まない日本人」と言われるように, 英語で書かれた設問は面倒だから読み飛ばしたり, インターネットなど他人の情報だけに頼ってすぐ選択肢に向かってしまったりする受験者が, とても多いのです。まずはしっかり自分で設問を読む癖をつけましょう。「出題者が尋ねていることに的確に答える」のが高得点の鉄則。

Which of the following can be inferred from paragraph 2 about the cause of the Cambrian explosion?

カンブリア爆発の原因について, 第 2 段落から推測できるのは以下のどれですか。

- A It will soon be clarified by a new morphological approach.
- B It may be that ecological relationships between species encouraged a sudden increase in the coevolution of species.
- C Many theories, which are supported or refuted by evidence, try to explain it.
- D It cannot be fully explained by a single theory.

-
- A それ（カンブリア爆発の原因）は、新しい形態学的な研究方法によってまもなく解明されるであろう。
 - B それは、動物種間の生態的關係が、複数種の共進化の激増を促進したこともかもしれない。
 - C 多くの学説は、証拠によって立証されたり反証されたりしているが、それを説明しようと試みている。
 - D それは単一の学説によって完全に説明されることはできない。

第一に、「推測」問題なので第2段落で実際にははっきり書かれていることは正解になりません。その点で、本文に明らかに書かれている B, C は推測の対象とならず、まず消える。A は、本文に書かれておらず推測の証拠も見当たらない推測、いわゆる Wild Guess (当てずっぽう) の選択肢で不正解となります。正解の D は、第2段落のほぼすべての文が証拠とも言えますが、特に最後の部分の the answer may very well be a combination of these and other theories 「答えはおそらく、これらの学説や別の説を組み合わせたものであるだろう」が決定的な証拠でしょう。「ということは、一学説ではだめだな」という推測です。infer問題は、TOEFL iBT の Reading だけでなく Listening でも頻出設問です。必ず解法を体得しておきましょう。

英文厳選のポイント

現存する生物やその祖先がなぜこのカンブリア紀に集中して突然発生したのか。多大な議論の余地を残すため、真っ向から扱われることは少ないかもしれません。しかしながら TOEFL iBT 受験者にとって、関連用語も含めて、ある程度は絶対に知っておかなければならないトピックです。

カンブリア紀の生物の激増

1 5億4200万～4億8800万年前までのカンブリア紀は、地球の歴史上、最も急速に新たな動物門が進化し、動物多様性が拡大した時代だ。現存する動物門のほとんどは、しばしば「カンブリア爆発」と呼ばれるこの進化の時代に起源を持つとされる。棘皮動物門、軟体動物門、環形動物門、節足動物門、脊索動物門はいずれもこの時代に登場した。カンブリア紀に最も繁栄していた種のひとつが三葉虫で、三葉虫は節足動物門に属し、最初期に視覚を獲得した動物のひとつに数えられている。

2 カンブリア爆発が起きた原因は、現在でも議論的になっている。多くの学説が、この疑問に答えようと試みている。環境の変化に伴い、動物が生きるのにより適した環境が生まれたのかもしれない。そうした変化の例としては、カンブリア紀に先立って起きた大気中の酸素濃度の上昇や、海水中のカルシウム濃度の大幅な上昇などが挙げられる。科学者の中には、浅い礁湖や水たまりが無数にある広々とした大陸棚が広がり、より多くの種類の動物が共存するのに必要な生息スペースが生まれたと考える者もいる。また、食物網、餌やなわばりをめぐる競争、捕食者と被捕食者の関係といった動物種間の生態学的関係が火付け役となり、複数の種にまたがる突然の大規模な共進化が引き起こされたとする説を支持する者もいる。そのいっぽうで、遺伝的および発達の要因がカンブリア爆発を引き起こしたとする説もある。ホックス制御遺伝子の進化により、形態学上の柔軟性が生まれ、動物発達が複雑化したおかげで、動物形態の可能性を広げるのに必要な余地がカンブリア紀の頃に生まれたのかもしれない。カンブリア爆発が起きた理由を論理的に説明するためには、大規模な動物多様化が生じた妥当な理由を示すとともに、なぜ、いつそれが起きたのかという理由も説明できる学説を立てなければならない。先に挙げた各学説については、それぞれ裏付ける証拠と反証する証拠の両方が存在している。答えはおそらく、これらの学説や別の説を組み合わせたものであるだろう。

3 とはいえ、カンブリア紀に起きた動物多様化をめぐるいくつかの疑問は、依然として未解決のまま残されている。例えば、あれほど多くの種があれほど短い期間にどのように進化したのかはわかっていない。この特定の時期に、生命の「爆発」が本当にあったのか？ 科学者の中には、そうした考え方の妥当性を疑問視する声もある。というのも、カンブリア紀以前にもっと多くの動物が存在していたことや、その後の時代にも同様のいわゆる種の爆発（拡散）が起きていたことを示す証拠が増えているためだ。さらに、カンブリア紀に始まったように見える動物種の爆発的な多様化は、そのあとに続くオルドビス紀になっても続いていた。一部にはそうした論争があるものの、カンブリア紀は驚くほど急激な動物の進化と多様化が起きた時代であり、それは歴史上ほかに類を見ないものであるという点では、ほとんどの科学者の意見が一致している。



重要単語とフレーズ

※ 左端の数字は本文での行数を示す。

1	the Cambrian period	カンブリア紀
2	animal phyla [fáilə]	動物門 *単数形は phylum
3	animal diversity	動物多様性
5	referred to as the Cambrian explosion	カンブリア爆発と呼ばれる
6	Arthropods arose during this period.	節足動物がこの時代に登場した。
7	the most dominant species	最も繁栄していた種
13	rising atmospheric oxygen levels	大気中の酸素濃度の上昇
14	oceanic calcium concentrations	海水中のカルシウム濃度
15	precede the Cambrian period	カンブリア紀に先立つ
15	an expansive, continental shelf	広々とした大陸棚
16	numerous shallow lagoons	無数の浅い礁湖
17	for animals to co-exist	動物が共存するための
20	the food web	食物網
20	competition for food and space	餌やなわばりをめぐる競争
20	predator-prey relationships	捕食者と被捕食者の関係
21	promote a sudden massive coevolution	突然の大規模な共進化を起こす
22	genetic and developmental reasons	遺伝的および発達の要因
23	the morphological flexibility	形態学上の柔軟性
24	afforded by the evolution ...	～の進化により生まれた
28	the massive animal diversification	大規模な動物多様化
30	refute each of the theories	それぞれの学説を反証する
39	prior to the Cambrian period	カンブリア紀以前に
40	Radiations occurred later in history.	その後の時代に拡散が起きた。
43	despite [= in spite of] these arguments	そうした論争があるにも関わらず
46	unmatched elsewhere during history	歴史上ほかに類を見ない

10 Powerful Codes for Reading Comprehension ①②

読解のための10個のパワフル・コード ①②

10 パワフル・コードは、英語のセンテンスへの基本的なアプローチを短く成文化したものです。これからご紹介する 10 個のコードにひとつずつ目を通し、() 内の秒数で各センテンスを読み取ってください。英文の読み取りがまだまだ苦手で時間がかかる方は、コードをしっかり脳裏に焼き付けましょう。

① 主動詞が見つければ、その前がすべて主部（倒置でない限り）！

The ancient practice of sealing documents or property with clay impressions to confer proof of origin and provide security lives on in the still-used system of sealing important documents by making an impression in bright red sealing wax. (20sec.)

② 前置詞で始まる主語はない！

With the exception of mercury, the metallic elements are solid at standard temperature and pressure. (10sec.)

① The ancient practice of sealing documents or property ... lives on in the still-used system ...

下線の lives の部分が主動詞だとわかれば、文意は取りやすい。

「出所を証明し安全を提供するために、粘土の印で文書または所有物に封印するという古代の慣行は、鮮やかな赤色の封蝋で封印することにより、重要な文書を封印するという依然として使われているシステムにおいて、生き延びている」

② With the exception of mercury, ...

この句は前置詞で始まっているので、主語にはなれません。よって主語は、the metallic elements です。

「水銀を除いて、金属元素は標準の温度と圧力においては固体の状態です」



分野別単語リスト

自然科学

asteroid	名	小惑星
celestial	形	天(体)の
constellation	名	星座
eclipse	名	(日・月)食
moon	名	衛星
nucleus	名	細胞核, 原子核
orbit	名	軌道
radiation	名	放射能, 放射
terrestrial	形	地球(上)の, 陸(上)の
algae [ældʒi:]	名	藻類 【単数形】 alga
dating	名	年代算定法
embryo	名	胎芽, 胚
flora	名	植物相
fungus	名	菌類 【複数形】 fungi [fʌndʒaɪ]
marsh	名	湿地帯, 沼
osmosis	名	浸透

photosynthesis	名	光合成
mimicry	名	擬態
camouflage	名	偽装, 迷彩
fauna	名	動物相
invertebrate	名	無脊椎動物
larva	名	幼虫
mutation	名	突然変異
parasite	名	寄生動物, 寄生植物
predator	名	捕食動物, 猛禽類
prey	名	獲物
spinal	形	背骨の, 脊髄の
symbiosis	名	共生
thrive	動	すくすく育つ, 栄える, 繁茂する
insulation	名	遮断, 断熱, 隔離, 孤立
angiosperm	名	被子植物
trench	名	海溝, 深い溝
shale	名	泥板岩, 頁岩 <small>けつがん</small>
granite	名	花崗岩
meteor	名	隕石, 流星

林 功 (はやし いさお)

早大一中退。サザン・イリノイ大英文科卒。ワシントン大大学院比較文学科修士課程修了(学位: MA in Comparative Literature)。留学試験専門校 LINGO L.L.C 代表。長年にわたって、高校生からビジネススマンまで、TOEFL® テスト受験対策を中心に英語を教え続け、「ヒゲの林」の愛称で親しまれている。今では 10,000 人以上の教え子が国内外で活躍中。1998 年に、PC を使った TOEFL 講座を開講。そして 2004 年に他校に先駆けて IELTS 対策カリキュラムを企画し、レベル別対策講座を開講、現在に至る。著書に『TOEFL® TEST 必ず☆でる単スピードマスター』(Jリサーチ出版)、『IELTSTM 必須英単語 4400』『CD BOOK 改訂新版 TOEFL® TEST 必須英単語 5600』『CD BOOK TOEFL® iBT 頻出英単語 1700』『CD BOOK アメリカの中学教科書で英語を学ぶ』(以上ベレ出版)、『全問正解する TOEFL® ITP TEST 文法問題対策』(語研)、『ETS 公認ガイド TOEFL® iBT CD-ROM 版』(監訳、ETS/McGraw-Hill) がある。

© Isao Hayashi, 2024. Printed in Japan

TOEFL iBT® テスト リーディング 設問タイプ別解答術

2024 年 12 月 1 日 初版第 1 刷発行

著者 林 功
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒101-0064
東京都千代田区神田猿樂町 2-7-17
電 話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
組版 ツディブックス株式会社
印刷・製本 シナノ書籍印刷株式会社

ISBN 978-4-87615-433-3 C0082

書名 トーフル アイビーティーテスト リーディング
セツモンタイプベツカイトウジュツ
著者 ハヤシ イサオ

著者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価: 本体 2,700 円 + 税 (10%) [税込定価 2,970 円]
乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社 語研

語研ホームページ <https://www.goken-net.co.jp>

本書の感想は
スマホから ↓





TOEFL iBT® テスト リーディング 設問タイプ別解答術

ためし読みはここからです。

[Webページへ](#)

